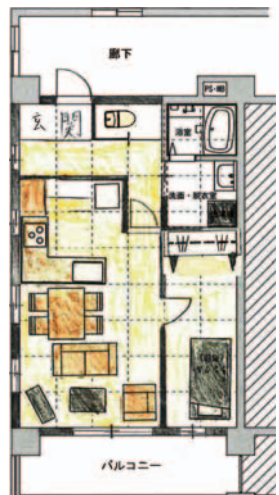
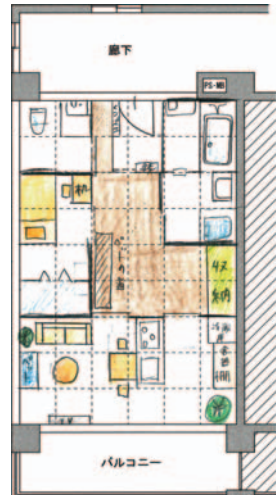
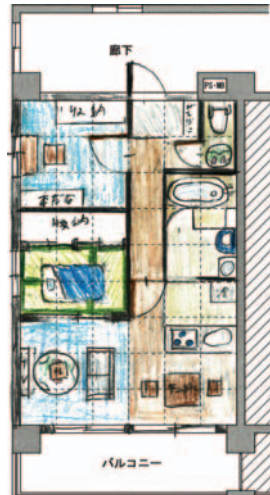
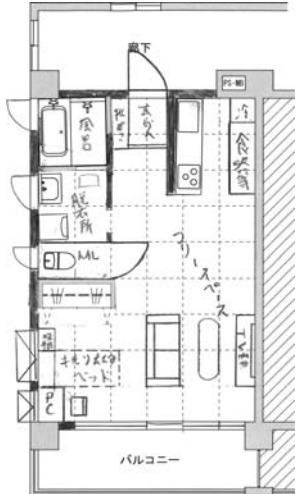
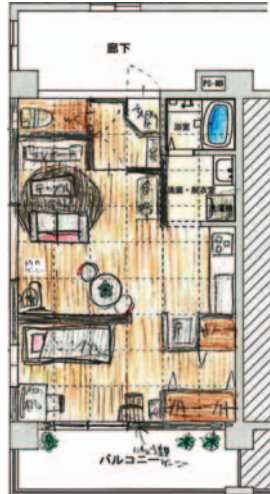
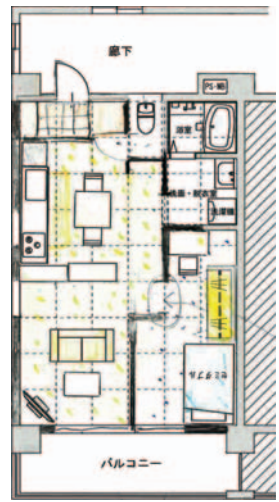
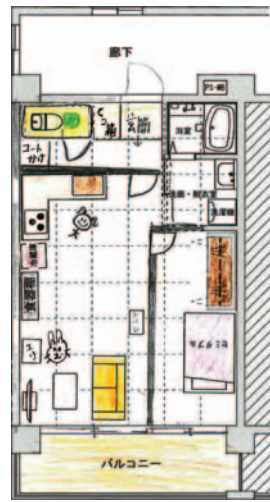


# 街

支部だより 2018. No. 1

住教育出張講座の生徒作品  
野幌高校  
国際情報高校



## 新役員・委員長就任・再任挨拶

### 支部長再任挨拶

「2018年、春立つ」

長谷川 敏 文



先の1月26日の支部総会におきまして、ご推薦をいただき、支部長就任のご承認を頂きました。再任に当たり、札幌市・江別市・当別町に在住、在職されている札幌支部の正会員・準会員のみなさまにご挨拶申し上げます。

担当させていただいた1期2年の事業執行においては、実行委員のレギュラーメンバーと共に、各賛助会員企業・団体様のご協力を得て、瞬く間に駆け抜けた感があります。

その間、「札幌市との災害対応協定」を締結させていただき、高校生を対象とした「住教育出張講座の実施」及び、小学生を対象とした「建築お仕事体験イベントへの参加」、また、一般の方を対象とした「さっぽろまち歩き tour の実施」は予定以上の成果を収めることができました。今後も、これらの事業は、継続していきますが、新たに多角的な視点からの挑戦や、事業に参加いただいた方からのアイデアも駆使し、内容の充実を図っていきたいと考えています。

任期の2020年1月まで、札幌支部長の任を精一杯、真摯に努めますので、変らぬご理解・ご指導とご協力を頂戴いただけますようお願い申し上げます。

最新のセミナー情報や、建築技術情報を要望される方を対象とした Web 登録制度を開始しました。同じ目的を持った技術者間に、内容のある情報の開示や情報交換が介在することで、それを通して建築のプロ同士ならではの創意と工夫が見込め、さらには相互の信頼と絆を深めることができると共に、人と人とのつながりがネットワークとして機能していくものと思います。

そのネットワークの拡散にこそ、技術的レベルアップのヒントと、個々の利益に繋がるチャンスが無尽蔵にとりまいているものと考えます。その機会とステージを提供することが、私たち建築士会札幌支部の目的と役目でもあります。

ぜひ、多くの方に Web 登録制度（無料）に参

加していただき、1,000人規模のネットワークのステージに乗って、建築士会の年会費分以上の効果を実感していただきたいと思っております。また、新しいイベント事業の立ち上げや企画に関するご意見は大歓迎です。提案のみによらず、ぜひ一緒に楽しく実践できればと願っています。

### 副支部長の 再任にあたり一言

井 上 勝 己



私たち建築士を取り巻く環境は相変わらず激しく変化し速やかに情報を探知し適応することが求められています。インターネットの普及で情報が入手しやすくなりましたが本当に欲しい生の情報は簡単に入手できません。

最近の主な環境の変化

◇働き方改革と仕事の工夫

どうせ大手の会社のことで個人事務所には関係がないと思っている方が多いようですが、これは社会の大きな流れでありすぐに自分のところにやってきます。

休日なし・徹夜して頑張ればなんとかなる時代から限られた時間内に契約条件を満たす能力を要求される時代になったのです。

◇人手不足と技術の伝承

人手不足は先輩の定年による卒業となかなか資格を取れない後輩のバランスが崩れて1級建築士は少なくなるばかりです。我々高齢者？は先輩から受け継いだ技術を後輩に伝授する使命があり後輩は先輩から盗むくらいの気合で学ぶべきです。

◇リスク管理の強化・認識

リスク管理の認識があまりなく他人の設計した既存不適格建物の改修を引き受け全体の設計責任を持つことになった。委託書に瑕疵の限度は委託料が限度と明記しなかったために委託料を遥かに上回る損害賠償を求められた。

などリスク管理の強化・認識をしていないことで恐ろしい結果になる環境になっています。



建築士会活動を通じて役立つ情報を入手・活用され会員皆様の益々の達成感に満ちて充実した建築士人生を送られることを祈念いたします。

※写真は約45年前の入社試験用の写真です。

日常生活は顔に出るといいますが今度お会いしたらご感想をお聞かせください。(笑)



## 副支部長再任ご挨拶

内海 純一



3期目の副支部長を仰せつかりました。昨年9月からWeb登録制度が開始、今年は通常総会にて女性委員会設置が承認され、初代委員長さんの下、女性建築士の活動の巾が広がるとともに、先行スタートしている会員増強特別委員会とともに会員増強への影響も大いに期待出来るでしょう。各委員会もそれぞれ新年度の事業計画に基づき準備と実施の作業を進めています。今年は会員名簿の発行の年で、情報委員会で校正・発行準備中ですので大いに活用して頂きたいものです。十年一昔の尺度は現在の時代変化からするときっと五年一昔とでもなるかもしれません。めまぐるしく変化するこの時代、建築士会を情報収集や交流の場として、更に多くの建築士が利用して頂きたいと思います。



## 副支部長、総務委員長 再任の挨拶

西岡 誠



このたび総務委員長に再任されました。長く居続けるのもどうかと思うのですが、もう少し建築士会に対して結果を残せということなのかなと思っています。

さて、新しく建築士になれる人は残念ながら年々減っているのが現状です。また、団塊世代の

建築士の方々に一線から退かれる方々が増えたのも事実です。建築士の総数も減少の方向にあるのかもしれませんが、それでいながらホームインスペクションをはじめ、建築士資格をその要件とされることも以前に比べ多くなってきており、社会のニーズは上向いているように感じています。

建築士会は会員の方々に役立つ情報を伝達すること、講習会・セミナー等で教育の場を提供することが重要な務めだと思っております。ただ、残念ながら会員数が伸び悩み、全道でいくと減少傾向にあります。このままですと情報提供や教育といった建築士会としての活動に支障が生じる恐れがあります。総務委員会は会員の増強につきましても重要な役割を負っており、総務委員会委員の方々と共に有効な手立てを講じていきたいと思っております。そのためには建築士であることが魅力的であること、また、建築士会自体が魅力的であることが求められているのだと思います。

魅力的な建築士像そして魅力的な建築士会像について、総務委員の方々、また会員の皆様のお力とお知恵をいただきながら、会の発展に寄与したいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。



## 副支部長再任のあいさつ

「子どもたちに建築の魅力を!!」

針ヶ谷 拓己



2期目となる副支部長の役を仰せつかり、今期も担当する青年委員会のサポートを中心に務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

ここ数年ずっと耳にする「若手の人材不足」は、建築産業界全体の悩みでしょう。

建築という職業、魅力がないのでしょうか…。

「2017年度 小学生の将来になりたい職業ランキングトップ10」では、建築士が第5位となっており（1位 サッカー選手等／2位 野球選手等／3位 医師／4位 ゲーム製作関連／5位 建築士／6位 ユーチューバー／7位 バスケットボール選手等／8位 大工／9位 警察官等／10位 科学者

等)、実はかなりのポテンシャルを秘めています。ですから「若手の人材不足」の解消には建築の魅力をもっと次世代へアピールすべきですし、「働き方改革」という難題を逆手にうまく解決していくことができれば、飛躍的な魅力アップのチャンスになるかもしれません。

さて、北海道建築士会札幌支部では、建築の魅力を次世代へ伝える事業として、住教育特別委員会（女性委員会が中心）にて“高校生家庭科住教育出張講座”が活発に行われています。また、青年委員会では数年活動を続けてきた“お家の間取りパズル”を、今年はじめに小学校の授業として実践する予定であります。建築に初めてふれる小学生のファーストステップとして、とても分かりやすく楽しい内容であり期待をしているところです。子どもたちに対するこの2つの大きな事業は今後も積極的に応援させていただきます。

## 副支部長再任の挨拶

菊地 義紀



このたび長谷川支部長執行体制のもと2期目を務めることとなり、あらためて身の引き締まる思いです。ご高承のごとく、私達を取り巻く現状は非常に厳しく会員相互の協力と理解を一層深めて、建築士会の存在価値を高めていかなければいけない時代になってきた事を痛感致します。また、最近の大きな問題の一つとして、政府が唱えている「働き方改革」があります。我々建築士にとって長時間労働は当たり前というのが実情ではないでしょうか。残業時間を何時間以内と言われても、なかなか守れませんし、ITを駆使し合理化に励んでもなかなかできません。でも、この機会をチャンスだにとらえて、お客様の理解を得ながら、時間の使い方や生産性の向上を目指し、ワーク・ライフ・バランスを進めて行くことが必要です。そのことが、私ども建築士会にとっても、会の活性化と会員増強の原点になると考えます。

私たち建築士会はプロフェッショナル（顧客志向）且つ、スペシャリスト（知識・技術・技能志

向）の集団として「希望とプライドを持てる建築士会」を目指すべく、自己研鑽と共に自己啓発に励み、その技術と能力を十分に発揮して、地域と共に生き、地域に密着した活動を通じて、社会に貢献しなければならないと考えております。

最後に、私も含めて会員自らが楽しく熱き心を持って、会員相互のため、建築士会のため、そして社会のために尽力できるよう、札幌支部の運営・発展と信頼に努力して参る所存でございますので、今後とも建築士会へのご協力と、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、再任の挨拶と致します。

## まちづくり委員長 就任の挨拶

川原 昌彦



今期より、まちづくり委員長を務めさせていただくこととなりました。よろしくご挨拶致します。

思えば、まちづくり委員会には、2010年の発足時から参加しています。当初、当委員会では、一般市民の方々も参加できる「札幌の景観バスツアー」の事業とともに、2010年から2012年の3年間には、2004年の景観法制定による景観意識の高まりのなか、景観に対する意識向上に寄与する目的で「景観スペシャリスト養成講座」と題した建築士に向けた連続講座を開催していました。

現在においては、主に次の3つの事業を展開しております。

発足当初より続く①「札幌の景観バスツアー」や、①の発展した形として、まちを散策することで連続した街並みを味わい、まちの連鎖する魅力の再発見や気づきの感覚を得ることを目的に開催する②「札幌の街あるき」。そして、③まちづくりセミナーの事業を展開しています。それらを積上げ今後も継続し、さらなる発展を図っていくこととしています。

まちの歴史的建造物等をはじめとする空間資源とまちに蓄積された歴史・文化を背景とした時間資源を通したシークエンスを、「まちを知り、学び、楽しむ」ことで、まちの魅力に気づく機会を

広く多くの方々に提供する。このような活動を「まちガク」と称して当委員会のまちづくり活動のテーマとしています。

世代の垣根を越えた多くの方々の狭間をそよぐ風のように包みつなげる活動を目指しています。

私も委員長として微力ながら努力してまいりたいと思いますので、皆様におかれましては当委員会へのご協力、事業へのご参加のほど、お願いいたします。なお、当委員会では委員を募集中です。多世代の方々の委員としての参加をお願いし就任の挨拶と致します。今後とも当委員会をどうぞよろしくお願い致します。

## 交流委員長 再任の挨拶



平井 香希

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび建築士会札幌支部交流委員長に再任することになりました。

2期目の交流委員長となりますが、毎年昨年よりもより良く、皆様楽しんで頂ける交流事業と計画しておりますが、なにかと説明が不十分なところや準備不足なところがあり、まだまだ、課題として浮き彫りになっております。

交流事業の基本理念である、様々な分野の他団体との交流をより一層深めていく札幌支部の委員会の委員長として身にあまる重責ではありますが一意専心、発展に全力を尽くし、皆様のご期待に添うよう努力いたす所存です。

今年も例年通り、パークゴルフやゴルフ大会及び忘年会などいつもながらの企画の中でも、たくさんの方に参加して頂けるような内容の改善をしていくつもりです。

つきましては、格別のご指導ご鞭撻を賜りますよう謹んでお願い申し上げます

まずは略儀ながら書中をもって再任のご挨拶申し上げます。

## 事業委員長再任の挨拶

### 事業委員会の活動について



松本 純

前期より引き続き事業委員長を務めさせていただきます、松本と申します。前期におきましては、従来からの「建築士試験受験者講習会」をはじめとし、理学療法士・作業療法士の方々との「異業種交流会」、残念ながら応募が無く実施が叶わなかった「撮り建グランプリ」、昨年からの新規事業であります「建築基準法勉強会 法令クエスト」という4つの事業を進めて参りました。

「建築士試験受験者講習会」については、昨年より建築士事務所協会様との連携、他支部へも案内を行い、フライヤー作成等も功を奏し、受講者数、合格者数の増加が見られたことは喜ばしく、本年も引き続き実施を致します。

「異業種交流会」につきましては、建築士・理学療法士・作業療法士での見学会・交流会が3回まで実施され、顔なじみの方々も増えまして活発な意見交換や次回交流会のアイデアが生まれてきており、少しずつではありますが何かを形にするべく方向が見えてきたところです。

「撮り建グランプリ」につきましては、昨今の個人情報保護や企業内情報公開の規制など、ハードルが高いことを実感し、応募要領や撮影対象の見直しを行い是非とも実現したいと願っております。会員の皆様の応募ぜひお待ちしております！

「建築基準法 法令クエスト」は昨年、好評のうちに第1回を実施しました。本年は具体的な内容について掘り下げていくべく、企画を練っているところです。

何れの事業におきましても会員の皆様にご参加いただき、より有益な情報や経験を得ていただく場を設けていきたいと考えております。ご都合のつく限りご参加いただけますと幸いです。





## 情報委員長新任ご挨拶

安達 あけみ



本年度より、情報委員会の委員長を務めさせていただきます安達と申します。

情報委員会は、年2回発行の「街」と、月1回の「STREET」、「札幌支部ホームページ」で会員の皆様と交流している委員会です。

「街」は、かつて年3回発行の支部だよりでしたが、現在は2回の発行です。タイムリーな記事は「STREET」に、じっくり読んでいただきたい記事は「街」と分けて編集しています。

個人的にはありますが、前委員長同様に北海道ヘリテージ・マネジャーの資格登録をしています。今後も魅力ある札幌の歴史的建造物の紹介をして行きたいと思います。

「STREET」では、各委員会からの情報発信とイベント報告が定着してきています。札幌支部Web登録者には、メール配信をしています。Web登録は会員外の方も登録できますので、職場の方にもPRをお願いします。

支部ホームページは、今までの活動報告等を含め掲載しておりますが、経年により情報が古くなっている部分もある為、見直しを進めているところです。

今期も皆様の役に立つ情報を発信して行きたいと思っております。また、皆様からもぜひ伝えたい情報が有りましたら、情報委員会へお知らせください。皆様の投稿をお待ちしております。

## 青年委員長 新任のごあいさつ

「パズル・組み木・スキルアップ！」

柴山 立行



今期、札幌支部青年委員長を務めさせていただきます柴山と申します。

私が建築士会に入会したのは平成20年頃です。

当初どの委員会に参加してよいのかわからず、総務委員会に拾っていただきました。その後、大学の先輩で当時青年委員長の針ヶ谷現副支部長に声を掛けていただき、青年委員会に参加させていただくことになりました。

針ヶ谷さんが提唱された「地域貢献」「スキルアップ」「仲間づくり」という青年委員会活動の3つの柱は世代が変わっても脈々と受け継がれています。10年近くも同じタイトルなのでそろそろ別なテーマを…などと定款を読み返したりしていましたが、なかなかどうして青年の活動の柱にふさわしい言葉として上記に勝るものは考え及びませんでした。10年経っても廃れない3つのキーワードは建築士会活動の拠り所となる究極のテーマなのかもしれませんね。

**「地域貢献」** 例年建築士の日イベントで、将来の建築士たる子ども達を対象とした「建築士のお仕事体験」が開催されます。札幌支部青年発祥の「パズルでお家を考えよう！」も今年で5年目を迎えます。今期はさらに札幌市内の公立小学校の授業で取り扱っていただけることになり、その実現に向けた準備を進めているところです。

**「スキルアップ」** 上記「パズル」と同様、札幌支部青年発祥の取り組みとして「組み木」があります。これは積み木にヒントを得た木製ブロックのようなパーツを、自在に組み合わせて立体空間を創るものです。昨年の建築士の日イベントでは試験的に子ども達に体験してもらい好評を得ました。今期はさらに改良を加えて「組み木」を活用した構造セミナーの開催を目指しています。またこのほか会員向けに現場見学会やコミュニケーション系講習会の開催も予定しています。

**「仲間づくり」** 地域貢献活動とスキルアップ活動は、副委員長を主体としたプロジェクト制で取り組んでいます。青年委員は「パズル、組み木、スキルアップ」の各プロジェクトに任意で参加し、委員会ではプロジェクトごとの進捗報告と課題について全員で話し合います。プロジェクトでの作業を通じてメンバー同士の仲間意識を高め、またイベントへの参加を通じて他支部、他団体さらには一般の方々との交流が深まることを期待しています。

最後に、これらはいうまでもなく青年委員の中

心メンバーが自発的に取り組んでいる活動です。建築士の社会的地位の向上と建築士会のブランド力アップに貢献していこうという心意気を持つメンバー達による様々な活動を無理なく継続できるように、私自身、支部長を始めとする諸先輩方、関係各位の皆様方のご指導の下、与えられた役割をしっかりと果たすよう努めてまいります。

## 女性小委員会が 女性委員会になりました

新海直美



2013年より総務委員会内で活動して参りました女性“小”委員会が、本年より女性委員会となりました。引き続き、委員長として務めさせて頂くことになりました新海です。改めましてどうぞよろしくお願い致します。

委員会化にあたっては、目的について皆さんと何度も話し合いを重ねました。最終的には「女性建築士の視点から、住まい方・暮らし方についての検討、子育て・介護等の家族との関わり方による生活空間の変化への対応、職能を活かした働き方・生き方等、日々の暮らしをより豊かにする提案等を活動目的とする。」ことが委員会の目的となりました。「暮らし」を軸にした考え方が女性らしくていいなと思っています。誰もが毎日触れているものなのに、言葉にすると難しいイメージになる「建築」。一般の方にも、もっと身近に感じて頂ける活動ができたらと思いますし、建築を生業としている女性の皆さんの能力をより活かせるような場になればと思っています。

小委員会の頃よりお伝えしておりましたが、何故この時代にあえて「女性」と謳うのか。私自身も違和感を覚えた時期はあるのですが、道や連合会の活動に参加させて頂き、女性ならではの感性が活きる場面に多く接しました。委員会の目的にもある、子育てや介護などはまだ女性の方が経験の蓄積が多い分野でもあります。生活や暮らしなどのキーワードも出たりもしましたが、総合するとやはりまだ「女性」がじっくりくるのです。これまで女性が役割を担っていたことは、男性も多

く経験していく時代となっていくかと思います。そのうちに新しい言葉が生まれてきて「女性」が当てはまらなくなった時、名称は変わるのかもしれませんが。

あまり肩肘張らずにそんな違いも楽しんでいける活動ができたらと思っていますので、女性はもちろん男性の方もお気軽にご参加下さいね。

## 事務局長 再任にあたって

池田浩司



この度の総会において、札幌支部事務局長として前期に続き再任させていただくことになりました。前期は何かバタバタした中であっという間に任期が過ぎていったような気がします。事務局長とは支部長をはじめとした執行部の陰の支えとなり皆様がより良いかたちで活動できるよう努めることと思っております。前期はこの点が少し至らなかった気がしますのでこの反省点を踏まえたくてもう一期務めさせていただこうと思います。

さて、建築士会も他団体同様会員の減少が進んでおります。札幌支部においては2年前より会員増強特別委員会が設立され、私は兼務としてこの特別委員会委員長も拝命させて頂いており、どうかしてこの会員数の減少を食い止めようと委員会メンバーと色々とアイデアを出し合い頑張っているところです。おかげさまで皆様のご協力を得ながら、ここ2年間の会員数はほぼ横ばいを維持しています。しかし目指すところは会員数の増加を図ることです。これにはやはり魅力ある建築士会ではなくてはなりません。この魅力ある建築士会になるには魅力のある活動を活発に行い、広く一般に知っていただくことだと思います。これらの魅力ある活動が各実行委員会のできるよう事務局長として支えとなり頑張っていきたいと思っています。実は私、昨年末に思わぬ病気になり、健康の大切さをしみじみ感じることを体験しました。建築士会の活動をする上でも第一に健康でなければ何もできません。皆様も第一に自分の体を大事にして頂き健康維持に努めて下さい。

# インターネットで指定道路調書を無料でダウンロード

札幌市 都市局 建築指導部 建築確認課（道路確認担当）

平成30年（2018年）4月2日から、札幌市のホームページ「都市計画情報提供サービス」において、指定道路調書の公開を開始しました。指定道路調書の閲覧・印刷が、札幌市建築指導部の窓口のみではなく、インターネットでも可能になりました（無料）。

## 【閲覧にあたっての注意点】

- 指定道路調書は、「都市計画情報提供サービス」で住所を検索後、画面左「地図の設定」の「指定道路等」欄にチェックを入れて、表示したい道路を地図上でクリックしてください。画面左「詳細情報」欄に道路の情報が表示され、下の

指定道路調書欄をクリックすると調書が表示されます。

- 表示している指定道路の情報は、年に4回更新する予定です。新たに告示したものや調書更新中の情報は、札幌市ホームページ「建築基準法の道路（最新情報）」を参照してください。
- 指定道路調書は、建築基準法施行規則の規定により、本市が申請図（指定道路台帳図）を基に最新の地番図上に指定道路の位置を作図したものです。位置について疑義がある場合は、必ず札幌市本庁舎2階南側の2番窓口へお越しの上ご確認ください。



※「都市計画情報提供サービス」のホームページアドレス

<http://www.city.sapporo.jp/keikaku/web-gis/>

※「建築基準法の道路（最新情報）」のホームページアドレス

<http://www.city.sapporo.jp/toshi/k-shido/douro/dourosaisinn.html>

問い合わせ先：札幌市都市局建築指導部建築確認課指定道路係 011-211-2864



# 青年のページ

青年委員会 HP : <http://h-ab.com/sapporo/seinen/>

## 「パズルでお家を考えよう！」の今後の取り組みについて

青年委員長 柴山立行

### □はじめに

札幌支部青年委員会の「パズルでお家を考えよう！」(以下、「パズル」)は、委員会の地域貢献活動として取り組み始めてから今年で5年目を迎えます。青年層による地域貢献活動のあり方として"未来の建築業界を担う子どもたちに対して建築士の仕事や社会的役割を紹介し、建築士の職能に対する理解と将来の職業選択への興味を深めてもらうこと"が挙げられます。子どもたちに建築士と建築士会の存在を知ってもらうことは、一般市民に対する普及啓発であるとともに将来の会員増強の意味を含めて重要な取り組みの一つであると考えられます。

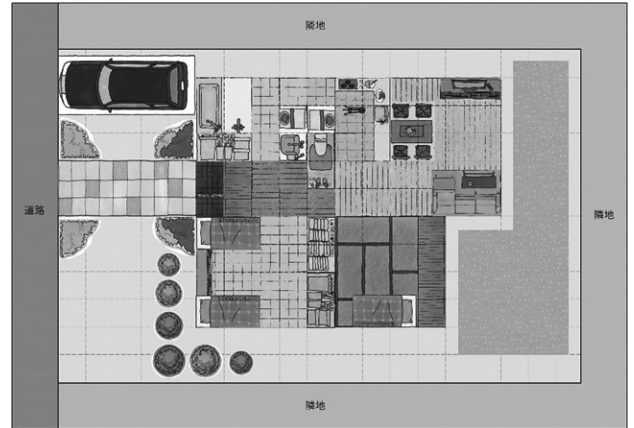


「パズル」は札幌支部青年委員会の継続事業であるばかりでなく、本部青年委員会との連携による建築士の日イベントのお仕事体験や道内他支部の青年委員会にも提供されるなど、様々に活用されていることからご存知の方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。本稿では私たちが「パズル」に関して今後どのような取り組みを目指していくのかについてご報告させていただきたいと思えます。

### □これまでの取り組みについて

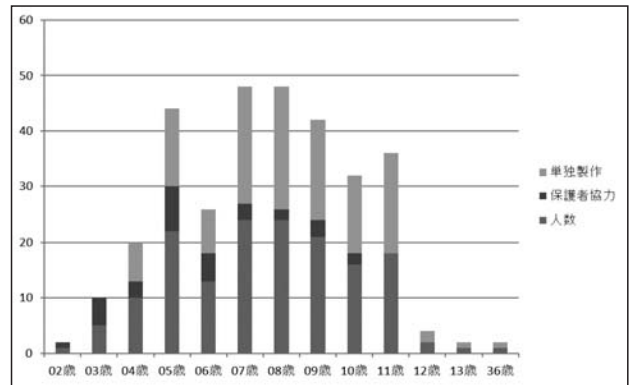
「パズル」は子どもたちに建築士の仕事をわかりやすく紹介するために、その代表的な業務である「設計」を遊び感覚で楽しく体験できるツールとして札幌支部青年委員会の中心メンバーが発案したものです。「パズル」の実施対象は将来の進路や職業観について漠然と考え始める時期の子どもたちが適当であると考え、「概ね小学5、6年生が取り組める内容」を念頭にツールを作成した経緯があります。試行錯誤を経てこれまで様々なイベント等で活用され、多くの子どもたちに触れてもらう機会を得ました。特に建築士の日イベントでは例年2日間にわたるお仕事体験で150~200近くもの作品が集まります。これに他支部で実施されたイベントの作品を加えると既に1000人を超える子どもたちが「パズル」を体験したことになります。これは建築士会の活動を広く一般の方々に知ってもらうための取り組みとして大きな成果であったといえるのではないのでしょうか。

一方、あるイベントに参加した子どもたちを年



パズルでお家を考えよう！の解答例

年齢別にみると就学前～小学校低学年の参加者が最も多く、当初期待した小学校高学年の参加者は少数でした。週末のショッピングモールなどが会場になると意外にも高学年の参加はまばらで、低学年以下の子どもたちが親子で参加する姿が多いことが共通した傾向として見受けられました。「パズル」は子どもたち自身がミニ建築士となり、課題を読み解きながら施主の要望に沿った住宅を計画するという内容であることから、読み書きを習い始めて間もない低学年以下の子どもたちには難解であったかも知れません。低学年以下の参加者には課題を考慮せず自由に作成することをお勧めしましたが、親やスタッフの手助けを借りたとしても住まいの構成をきちんと考えて完成できたの



あるイベントでの参加者の年齢構成

はごく僅かであったという印象を持ちました。しかしその反面少数派である高学年の子どもたちに関していえば、特にスタッフから説明を受けなくとも即座に遊び方を理解して課題に取り組む子がいたり、同じ課題で異なるプランを何パターンも作る子がいたりします。ある程度の年齢以上の子どもたちであれば、向き不向きはあるにせよ十分取り組める内容であるといえるでしょう。

### □今後の取り組み方について

これまでの活動を振り返ると、実施会場の特性から当初意図した小学校高学年の子どもたちに「パズル」を通して建築士の仕事や社会的役割を十分に紹介することができなかったのではないかという反省が挙げられます。会場の実情にあわせて「パズル」の内容を低学年向けに改良するという方法もありますが「将来の職業選択への興味を深めてもらう」ためには、やはり高学年以上の子どもたちにより多く体験してもらいたいという思いがあります。

そこで私たちは「パズル」実施の場をこれまで

## 田中家

お母さん 36歳      お父さん 40歳

はなこちゃん 10歳      たろう君 12歳

田中家は4人家族。  
みんながいつも仲良く一緒にいられるような素敵な家を  
建てることに決めました。  
どんな家にすれば良いでしょうか。  
田中一家の話を聞いて夢をかなえてあげましょう。

**お母さん**

子供たちと一緒に  
お料理が出来る  
広いキッチンが  
欲しいわね!

**お父さん**

趣味の読書や  
音楽が聴ける部屋が  
欲しいわね。  
家の前には車を2台  
停めたいよ。

**はなこちゃん**

お母さんと一緒に  
お料理したい!  
お母の作るアツタンの  
お菓子が欲しいわ!

**たろう君**

友達と一緒に遊べる  
ホウの部屋が欲しいな!

**ヒント**

プランは必要最低限の部屋にするようにしましょう。  
田中家にはどんな部屋が必要かな?一日の生活を想像してみよう。  
食事や睡眠をする部屋、お風呂やトイレもいるね。  
それぞれの部屋をどこにするか、バランスも考えよう。

パズルでお家を考えよう！の課題文

のようなイベント会場のみならず、小学校の授業のなかで実現できないかと考えました。イベント会場では思うように高学年の子どもたちが集まらないのであれば、こちらから高学年がたくさんいる場に乗り込んで行こうという発想です。そのためには小学校の協力を得たうえで「パズル」自体をイベント用から教育用に進化させ、高学年向けの授業の補助教材となるようにツールを改良しなければなりません。昨年白石区内のある公立小学校に相談を持ち掛けたところ快くご協力いただけることになったため、今期は委員会内にパズルプロジェクトを立ち上げ、学校側と定期的に打合せを持ちながらツールの見直しを行っているところです。

小学校での「パズル」授業実施の目的は、建築士のお仕事体験を通して将来の職業選択への興味を深めてもらうことにありますが、これは我々建築士会の立場による考え方です。小学校は教育の場であり、「パズル」を授業で取り上げていただくには学校の教育理念や教育上の必要性に見合うものでなければならず、テーマそのものが学校側に受け入れられなければなりません。また平日の昼間に1コマ45分で2コマ程度という日程上の制約がある中で、無理なく実施できる体制づくりが必要となります。以下に私たちが授業実施予定校に提案した「パズル」実施案の骨子をご紹介します。



### 「パズルでお家を考えよう！」実施案の骨子

①実施年度 平成30年度

②実施対象 小学校5年生（2クラス合同）

③実施科目 家庭科

サブタイトル「建築計画を通して住まいを学ぶ」

④学習のねらい

生活の基本である衣食住のなかで「住」とは「住まうこと」であり、「住まい」は雨風をしのぎ寝床を確保するだけでなく、食事や勉強をしたり、身支度を整えたり家族と過ごしたりする生活の拠点です。私たちは普段「住まい」のことについて

深く考えることはないかもしれませんが、しかし、住まいを形づくるには様々な専門家の知識や技術が必要であり、一般の人々にとっては大人でさえ思い通りに計画するのは難しいといえます。住まいづくりにはどのような人々が関わり、どのように形づくられるかという建築計画の考え方を学ぶことは、皆さんがより良い暮らしをおくるための大きな知恵となることでしょう。

### ⑤授業の進め方

講師1名（建築士会）、補助2～3名（建築士会）、補助2名（担任教諭）

<1コマ目>（45分）

1) 住まいの役割……………05分

- ・住まいとは何か？
- ・住まいづくりの専門家と建築士の役割

2) 建築計画の基礎知識……………10分

- ・住まいに必要な機能
- ・動線とゾーニング

3) 課題「おばあちゃん家」……………30分

- ・課題内容の把握～解答例の作成  
（講師による解説）

<2コマ目>（45分）

1) プランの作成……………30分

- ・解答例を参考にしながらプランを作成  
（個人 or グループ）

2) プランの講評……………15分

- ・講師が数点をセレクトし講評、まとめ



札幌支部青年委員会にとって初となるこの試みは、今年8月下旬頃の実施を目指しています。私たちのねらいは子どもたち自身が「パズル」を通して、建築に関わる仕事をするこの本質的な喜びを感じてもらえるようにすることです。子どもたちがミニ建築士として、自分たちの力で施主の希望を叶えてあげられることの喜び、住まいのことで困っている人の力になってあげられることの喜びを感じることができれば、社会になくならない建築士という職業に対する理解が一步深まるのではないのでしょうか。次回の「青年のページ」では授業実施後のご報告をさせていただければ幸いです。



# まちづくり委員会の活動概要

まちづくり委員会委員長 川原 昌彦

まちづくり委員会では、まちづくりに関連する主に3つの取組みを行っております。

ここに、それらの取組みの概要を紹介します。

## 1 札幌の景観バスツアー

7月1日の「建築士の日」記念イベントとして、2011年からはじまり、2018年には第8回目を迎える当委員会の中心的な取組みで、一般市民を対象として開催し、参加者からも好評を得ています。

毎回、対象とする区を決め、その区内の歴史的建造物や札幌景観資産、その他の景観や歴史・文化を背景とした地域資源等を巡ります。参加者は建築士会会員をはじめ、年配の方や学生など多世代で属性も様々な一般市民の方々に構成され、人数は約50名となります。また、リピーターが多いのも特徴といえます。

2012年の南区編や2013年中央区編では、札幌軟石の石切場や建物などを多く巡りました。地場材を使った建物が一定の数、保存利活用され続け、市民がそれに愛着を感じていることは全国的にも珍しいことと、強く実感させられる回でした。

2017年に開催した東区編では、古くは幕末から始まる開墾や産業等の歴史に関連した多くの歴史的建造物を巡見しました。新たに再生利活用されているものなど、さまざまな形で今の時代に生きている建物の姿を見て回ることができました。



2012年「南区編」石切場



2017年「東区編」サッポロビール博物館

一定の地域の歴史・文化といった「時間」軸をもとに、歴史的建造物等の点から点へとつなぎ巡る「札幌の景観バスツアー」のその回遊性は、日常では感じ取れない“時代との対話”といえます。

## 2 札幌のまち歩き

まちを散策することで連続した街並みを味わい、

まちの連鎖する魅力の再発見や気づきの感覚を得ることを目的に開催しています。



2017年「白石こころ一ど」から眺められる木造の工場

身近な歴史的建造物や街並みなどの「空間」資源と、季節の移ろいや地域の歴史や文化を背景とする「時間」資源。それらを総合的に体感することでまちに彩りを感じ、その魅力の再認識や新たな気づきの機会を、私たちに与えてくれます。

## 3 まちづくりセミナー

まちづくり全般についてのあらゆるテーマを対象として開催しています。

2015年には、市電ループ化の直前段階で「路面電車でまちを元気に！」を開催し、流動性の景観としての「市電」を学び、2016年には、北海道新幹線が景観にもたらす影響や観光への効果について学びました。さらに、昨年は当委員が研究していることから講師となって、壁面広告物と建物壁面の関係について知り考えました。

今後は、昨今注目されている事柄を、例えば空き家対策なども取上げていきたいと考えています。

## おわりに

以上の事業を展開し積上げ、そして今後も継続しさらなる発展を図っていくこととしています。

空間と時間といった資源を通したシークエンスを、「まちを知り、学び、楽しむ」ことで、まちの魅力に気づく機会を提供する。このような活動を「まちガク」と称して、当委員会のまちづくり活動としています。時代や多くの世代の狭間をそよぐ風のように包みつなげる活動を目指しています。

# 女性委員会の活動概要

女性委員会委員長 新海直美

女性“小”委員会が、本年より女性委員会となり、「街」に女性委員会のページを設けて頂けることとなりました！女性委員会としての活動はこれからですが、2013年から女性小委員会にて行ってきた活動をご紹介します！

## ▶2013

### 『和の空間と抹茶を楽しむ一茶話会開きますー』

最初の活動ということで、気軽に参加できるイベントをと開催されました。茶室を使って、お茶の作法を学びながら交流を楽しみました。

## ▶2014

### 『「避難所 HUG」研修会』

HUG（避難所運営ゲーム）の体験者を増やそうと開催されました。札幌や北海道ならではの問題点や改善点などの意見も多く出ました。

## ▶2015

「住教育実践業務 建築士向けセミナー」や講師の派遣など住教育の活動に多く取り組みました。現在この活動は「住教育特別委員会」となって継続されています。

## ▶2016

### 『建築・インテリアのプロが描くスケッチパース』

飯田公久さんを講師にお招きして2016年・2017



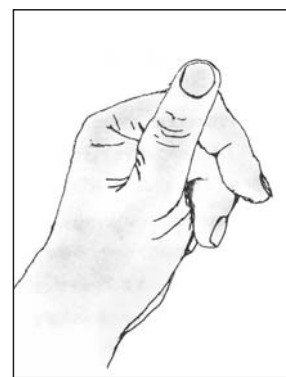
年と開催しました。一般的な手法だと歪みが大きく出てしまいがちなパース。その歪みを修正する手法を学びました。また、描写に対する苦手意識を取り除くという過程では、2時間でたちまちスケッチが上達するというのも面白い体験でした。

▽befor



⇒

▽after



## ▶2017

### 『プロに学ぶ撮影講座とプロフィール撮影会』

フォトグラファーの原田直樹さんを講師にお招きし、スマートフォンやコンパクトデジカメのより良い使い方を学び、プロフィール写真の撮影会を行いました。プロの撮影の様子を皆で見学するのも面白く、仕上がりもとても好評でした！



## ▶『納涼会』を毎年開催しています

今年は8月4日（土）開催の予定です。  
皆さまのご参加をお待ちしております！

ビール祭りの当選旅行を終えて

# 沖縄旅レポート

●旅行期間：3月23日～3月25日

伊藤組土建株式会社 設計部 篠田尚弥

私にとって沖縄旅行は初めての経験で、非常に楽しみにしていました。

沖縄の天候は曇りと聞いていましたが、空港は快晴で予想以上に暖かく、北海道との気温差に驚きました。ただ、半袖でいけると思っていましたが、沖縄の3月は20℃程度で、少し肌寒い感覚でした。

空港からはレンタカーで行動し、首里城・アメリカンビレッジを観光しました。首里城は写真でしか見たことありませんでしたが、想定していたイメージよりミニマムな外観でした。アメリカンビレッジは楽園のような独特の世界観が印象的であり、賑やかですごく惹きつけられました。札幌にもこのような場があったら、もっと明るいムードが出来そう…とか考えながら過ごしました。

夕食は有名な国際通りを歩きながら、雰囲気良さげな居酒屋を見つけ、地元の方々と戯れながら沖縄料理を堪能し、大変満足させて頂きました。

2日目は美ら海水族館・古宇利島を観光しました。美ら海水族館では、世界一大きなサメのジンベエザメやマンタなど、生で見るスケールの大き

さの迫力に興奮しました。古宇利島では、昔ながらの古民家やさとうきび畑があり、沖縄の原風景が色濃く残り、のどかな自然に触れることができ、改めて沖縄に来ている実感がありました。

3日目はガンガラーの谷・沖縄ワールドへ行きました。ガンガラーの谷は、鍾乳洞が崩壊してきた谷間に自然豊かな森が広がる神秘的なスポットで、木々の持つ自然のエネルギーが身体中に伝わるような感覚でした。遺跡も見ることができ、貴重な経験となりました。

沖縄料理のソーキそば・海ブドウ・ヤギ汁・ゴーヤ・島らっきょう・ジーマミ豆腐・ラフテーなど、たくさん食べましたが、強烈だったのがヤギ汁でした。匂いと味のクセが強く美味しかったです。これはぜひ沖縄を訪れた方に食べてほしいと思いました。

3日間を通して、沖縄に行けたことは心から嬉しく思います。貴重な経験と非常に有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。



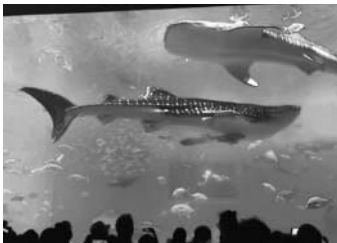
沖縄到着



首里城



アメリカンビレッジ



ジンベエザメが泳ぐ美ら海水族館



古宇利島上陸



泡盛を堪能



ガンガラーの谷



沖縄名物「ソーキそば」



クセになる美味な「ヤギ汁」



元気に生きるための  
「現代の空気環境」

# 北海道はビールが旨い

笠原茂雄

## 「夏の札幌は、ビールが旨い」

「ホント？ドコで飲んだって、オンナジ、でしょ！」

「ところがドッコイ、ホントに旨いんだ」

「サッポロ」はアイヌ語で「乾いた所」の意味とか。昔、札幌では春が来ると、乾いて埃が舞った。当時、物資運搬の主役は馬、道路の「お馬さんの落とし物？」も乾いて一緒に舞ったと云う。

札幌の春は雨がほとんど降らず、6月の日照率は日本一。

大地が太陽に温められ、地表の水分を奪う。

人は乾燥空気を吸うと喉が渇き、汗腺から水分を奪われ、体内は水分を欲する。

だからビールが旨い。

特に、梅雨や雨の多い本州方面から来る人達は、湿った空気で生活している為、汗腺が多い。

北海道の乾いた空気に接し、汗腺から、より多くの水分を取られ、体全体が乾いた状態になる。

ソコヘホップの効いた冷たいビールは「最高ッ！」「ドーして。コンナニ旨いのッ」となるのだ。



## 北海道の天気不思議

種をまく春5月は、殆どどの所が天気が一番良く、収穫期の9月、10月に又、天気が良くなる。

農作業の多忙な期間が、天気が良いのは天の助け！

又、道東の最も厳しい条件にある筈の冬の釧路、帯広の日照時間が格段に長い。

寒い冬の長い期間を耐え忍ぶ北海道への神の温

かい配慮であろうか？

## 「北海道は、冬もビールが旨い」

「って、ホント？」「ホントだから、ホント！」

日本では、夏は湿度が高く、冬は湿度が低い。中でも、寒い北海道の冬の空気は乾いている。

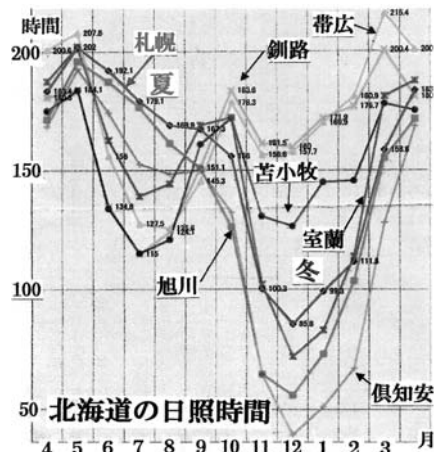
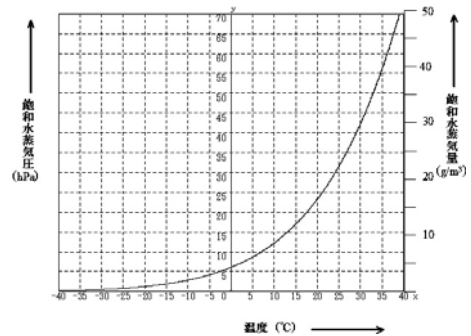
特にマイナスの気温になる北海道の空気は、水分が少ない。

下の図で、右側の飽和水蒸気量は、その時の気温に対し、含むことの出来る最大水分量でもある。そして、下の図の真ん中から左側、気温が零下になると含むことの出来る水分量は極めて少なくなる。

人体は大部分が水分である。

空気が乾いていると、黙っていても喉が渇き、体内の汗腺からの水分も出易い。運動等をするとう気持ちよ〜く汗が出て行く。

ウインター・スポーツは勿論、「雪投げ」や「ウォーキング」等、軽く運動しても爽やかに汗が出、「体内水不足！ビールが、旨いッ！」となるのです。



# 2泊3日 <sup>ひみ</sup>氷見—高岡の美味しい旅

森田 ゆう子

出発の日、3月だというのに猛吹雪。交通機関の遅延と飛行機は飛ぶのか？という不安の中、千歳は嘘のような穏やかさで、順調な空の旅をしばし楽しむ。

今回旅先に選んだ氷見市（富山県）は今まで全くご縁のない地域だったが、友人が「地域おこし協力隊」の募集で移住したため、偵察がてらの旅行である。

名物の氷見うどん（稲庭うどんに似てるかな？）などを食べ、友人宅（市の空き家対策）に着いてみると、北海道とは全く違う造りに驚く。地域にもよるのだが、町屋風で間口が狭く奥行が深い。玄関は車庫を兼ねる8帖ほどの土間になっており、玄関戸は全面型ガラスの3本引き。道路に面する明かり採りがそこしか無いため非常に薄暗い。奥の部屋にも採光用の中庭があるが、十分な明かりが取れず、ただでさえ寒い部屋が一層寒く感じられる。「暖を求めて外に出る」という感じ。

町中では道路のそこかしこに丸いプレートが見受けられる。融雪のための散水口である。へえ～便利と思ったが、撒かれるのは海水のため車がさ

びやすく、歩行者もうっかりしていると足元を直撃される。また、富山は国内で一番湿度が高いようで、押入れやタンス、棚など、かびの発生率が激しいらしい。北海道からすると、なかなか過酷な環境だ。

しかしながら、食べ物はどれも実に美味しい。魚介類はもちろんの事、富山のお米は今まで食べた中では一番と感じる。当然日本酒も美味しい。地元のお寿司屋さんにもセンスがあり、いまだに忘れられない味。氷見牛や近年はワイン造りも始まっている。

翌日は早起きをして市場のセリ見学に行った。まさに今、目の前で水揚げされた魚が並べられていく。残念ながら「ぶり」の季節は過ぎていたが、いわしが大量に水揚げされていた。松葉蟹はもちろん毛ガニも獲れるそうだ。町中に戻ると、さっきまでセリに参加していたお母さんが店先で魚を並べている。なるほど、富山出身の人が「ご飯のおかずは9割が魚」と言っていたのもうなずける。どこの漁港町もそうなのかも知れないが、私には



道路の散水口



氷見市場



イワシの水揚げ



公道のスコップ



藤子不二雄A氏実家・光禅寺



ぶり小僧



駅舎の屋根にもぶり



とても新鮮だった。友人宅近所の魚屋さんでは、いわしを選び分けているそばで、ご近所さんがいわしのみりん干しを作ったからと、ストーブの上であぶり始めた。その様子を見ていた私達に「そんなとこ立ってないで、こっち来て座んな」とあぶった魚を分けてくれた。魚屋のおばちゃんは無愛想だったが、ご近所さんは大らかだった。まあどの地域も、ふところに入ってしまうと、ほとんどは暖かい人なのだろう。

氷見には藤子不二雄A氏の実家、光禅寺がある。曹洞宗49代目住職の息子だそう。境内には御影石の等身大キャラクターが鎮座している。A氏の作品は「笑うせえるすまん」「忍者ハットリ君」「怪物くん」「プロゴルファー猿」など、F氏のドラえもん等とは少し毛色が違う。商店街には数メートルおきにキャラクターのオブジェが置かれているが、一緒に写真を撮りたいかと言われると微妙である。オフシーズンだったせいもあるのか、とにかく人が少ない。商店街は何の栄華の名残か、日本一の長さらしいが、それゆえに賑わい感が半減するようになった。ただ、富山湾を挟んで見る立山連峰は感動ものである。絵画のような景色を毎日見られるのは、とても羨ましいと思った。

最終日は友人と別れ、高岡に向かうべく観光列車「べるもんた（ベルモンターニュ・エ・メール）」に乗り込み、さっそく富山湾の握りを頬張る。車

内に寿司カウンターがあり、職人さんが握ってくれるのだ。海沿いの景勝地を巡る列車は通常より大きな窓面積で、撮り鉄でなくても写真を撮りまくってしまう。ここは沖縄か？と思うほど海の青が美しい。日本海側には珍しく遠浅の地域らしい。1時間程度の乗車中にいくつも撮影スポットがあり、その合間にお寿司を食べたりでやや慌ただしいが、なかなかオススメである。

あっという間に高岡に到着。400年余りの歴史ある街は見どころも多い。観光案内所で地図をもらい、まずは金屋町（千本格子の家並み）に向かう。その名の通り、縦格子と石畳の美しい家並みが続く。1611年に前田家2代当主利長が鋳物師を呼び寄せて鋳物場を開設させた始まりの場所であり、今日の高岡鋳物産業へとつながっているようだ。高岡の鋳物は生活の道具からお堂の鐘まで、国内生産の9割を占めているのは驚きである。次に向かったのは商人町の山町筋（土蔵造りの家並み）。こちらは1609年に前田利長が築城（開町）する際、初代利家が豊臣秀吉から拝領した御所車を利長が町民に与え、これを受け継ぐ10町を中心に経済が栄えた場所。れんが造りの富山銀行本店（辰野金吾監修）もあり、旧家と和洋折衷の建物が混在する、まち歩きにはうってつけの限界である。いずれの町も重要伝統的建造物群保存地区となっている。残念ながら国宝の「瑞龍寺」に行く時間はなかったが、また良い季節に改めて訪れたいものである。



べるもんた



車内で握りを食す



車窓風景



千本格子（縦格子）の家並み



山町筋



土蔵造りの家並み



富山銀行本店



## 技術レポート

# 歴史的建造物における 木製窓の改修について

## 「温故知新」に学ぶ

IWS (株)

技術アドバイザー 飯田 信男

### 1. はじめに

弊社、IWS (株) は、木製窓や木製ドアを主に製造販売している。これらの木製品は、時が経過すると共に、その建物の歴史的な表情を作り上げる建物の重要な顔である。しかし、木製窓は木材が材料であることから、腐りやすく塗装等のメンテナンスが不可欠である。これを怠り、そのままにしておくと、窓の下部等が腐り (写真3参照)、折角の歴史ある建造物も台無しになってしまう。

弊社では、これまでも木製窓の改修をお手伝いすることが多かったが、この度「旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮」(写真1・2参照)の保存改修工事における窓部分の工事にご採用頂く事が出来たので、そこから得られた結果や今後の取り組みについて紹介させていただく。



写真1 改修工事が終了した旧三菱鉱業寮



写真2 復元再生された上げ下げ窓



写真3 腐ってしまった窓枠

### 2. 歴史的建造物における木製窓の問題点

この場合の問題点は大きく次の2点が上げられる。(1) 木製建具は構造が複雑なため、水分が溜り易く、どうしても腐りやすくなってしまふ。(2) ガラスが単板で気密性が良くない等、断熱性が足りず、省エネ・環境の時代には相応しくない。

### 3. ではこの木製窓、どのように改善すればいいのか?

(1) 創建当時の姿をそのまま残す。

これらの歴史的建造物では、これまでのものと同じ姿で残して欲しい、むかしと同じ構造、同じ樹種、同じ金物 (写真4参照。現在弊社では創建当時の建具金物と同様のデザインのものを海外調

達できるようになった)、ガラス越しの多少ゆがんだ景色もそのまま残して欲しい、さらには、現存部材も残して改修して欲しいと難しいリクエストが多い。



写真4 100年前のクレセント

弊社では今回の経験を通して、これらのほぼすべてのリクエストに応えられる技術とシステムを築くことが出来た。またこれらは、図1に示すように、過去の建物や文献等からその知恵を得る

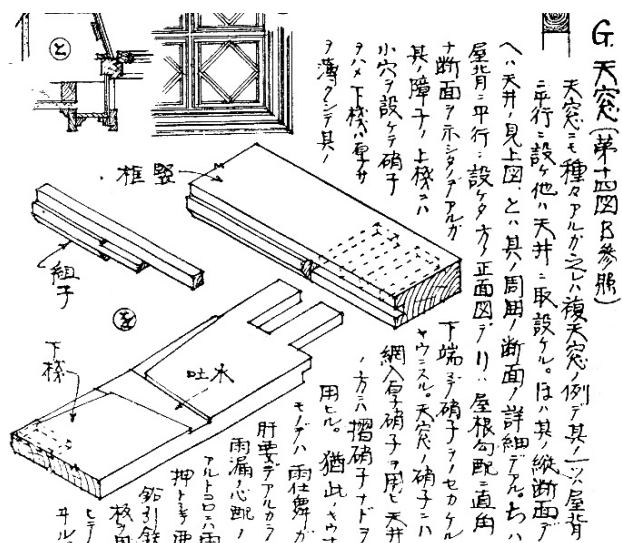


図1 大正期の排水口を有する建具下椽の構造  
 <弊社でも同じ構造(知恵)を採用>  
 (出展:志賀亀之助著『木造建築構造図解』大日本工業学会(大正13年9月1日)発行)

ことにより完成させることが出来た。言い換えれば、答えはほぼすべて先人たちの仕事の中に残されていた、と言える。

(2) 60年使える、耐候性を有する製品が可能になった。

創建時の姿をそのまま残すことは重要であるが、木の外部建具は腐り易い。そこで、弊社では2000年頃より世界各国で研究され始めた、高耐久性木材を窓に利用する研究を始めた。

このことにより、木材の大きな欠点であった、腐るということがほぼ皆無の窓製品の開発が可能となった。腐らなければ、塗装や金物交換等多少のメンテナンスは必要であっても、60年の耐用年数は不可能ではない事が、我々のこの10年の試行錯誤(写真5にその一例を示す)で明らかになってきた。

高耐久性木材は、先人たちの知恵「焼きスギ」(写真6参照)から生まれたものである。五千年前の先人たちは木材を熱処理すると飛躍的にその耐候性が上がることをよく知っていた。私たちはその技術を応用し、科学的かつ定量的に処理した木材を使っているだけである。しかも使うのは熱だけ、化学薬品などの使用は



写真5 試験の一例、高耐久性木材を使った実証試験  
 <弊社社屋にて>



写真6 現代風の焼きスギ  
 <五千年前から同様な方法で木材の耐久性を上げる処理がされていた>

一切ない、環境にやさしい処理方法である。ただ、その高耐久性木材の特性をよく理解し、最適化して窓に使っている。我々は、温故知新の世界を学んだことになるのかもしれない。

(3) 現代にふさわしい断熱性の付与

古い窓だから、昔の窓そのままの断熱性が良いかと言えば、必ずしもそうではない。

現実にはその施設を通年使うことも有り得、十分な断熱性が求められる場合も有る。この場合には単板ガラスでは全く不可能であり、どうしても高断熱ペアガラスの利用が不可欠である。しかし、ガラス関連の技術も著しく進歩し、単板ガラスとほぼ同じ見え方をするペアガラスが出来てきている。また、往時のゆがむガラスは現在では生産されていないが、その確保にも流通ネットワークを築くことが出来た。そのため、これらのガラスを用いた高断熱窓の製造も可能になりつつある。

それらのガラスを利用する方法は現段階ではかならずしも明確になっていないが、これも先人の仕事の中に答えがあるような気がする。

おわりに

現在、高耐久性木材に関わる製品開発は世界中で進められており、木材の外部使用や木製窓の世界が大きな変革期を迎えている。本製品はそれにヒントを受けて実施したものであり、今後どのように進んでいくのか、我々自身も非常に楽しみなところである。

これらの歴史的建造物の窓の改修については、その基本方針の設定から過去の資料調査などについて、北電総合設計 渡辺一幸氏の協力を得た。ここに感謝の意を表します。

## 新入会員紹介

青山 政己	青山設計工房
安藤 聡司	(株)札幌日総建
小倉 雅美	おぐら設計室
影山 友規	北海道
片峯 章雅	(株)真紀設備設計事務所
北潟谷 保	
紀本 潤子	あんしんホーム(株)
久家 慈	塚田設備管理(株)
楠山 秀貴	(株)札幌日総建
近藤 匠	北海道立札幌高等技術専門学院
佐々木 学	丸彦渡辺建設(株)札幌支店
真田 亮史	(株)総合資格札幌支店
柴田 啓介	日興美装工業(株)
鈴木 祐哉	日本E R I (株)札幌支店
関田 勝己	關田建築設計工房
宗原 宏志	北海道建築設計監理(株)
高嶋 一穂	(株)竹中工務店
高橋 雅人	(株)イエリード
千葉 崇史	丸彦渡辺建設(株)札幌支店
鍋田 祐希	日本データサービス(株)
濱田 裕章	(株)NTTファシリティーズ北海道
平松 章男	平松設計室一級建築士事務所
藤本 朋治	藤本建築設計室
増田 誠	グローバル設計(株)
松川 昌司	(株)札幌日総建
三浦 浩樹	(株)札幌日総建
横井 亮治	
横田 貴史	和光技研(株)
芳川 朝彦	エープラス芳川朝彦建築設計室
渡辺 順治	(株)札幌日総建
羽深 久夫	札幌市立大学

### 札幌支部 会員数

(平成30年4月30日現在)

正会員 807人

準会員 58人

合計 865人

賛助会員 69社

## 編集後記

役員改選後、初めての「街」をお届けします。

今回は、支部役員に再任された方、新任した方からのご挨拶を紹介しました。

委員会報告としては、青年委員会、まちづくり委員会、今年度から新たに委員会となった女性委員会の活動を紹介しました。

技術レポートでは、「歴史的建造物における木製窓の改修」をご紹介しました。古い建物を大切に使い続ける技術は、これからもご紹介してゆきたいと思います。

表紙は昨年度の「建築士による住教育出張講座」の生徒作品です。生徒さんの力作をご覧ください。

インターネット等で各種の情報検索が容易な時代となり、活字離れが進んでいると言われていています。しかし、のんびりと書店や図書館で本を選ぶのは楽しいものです。

これからも、皆様からの投稿をお待ちしております。

(安達あけみ)

### 支部だより「街」

2018.No.1

平成30年6月発行

発行一般社団法人北海道建築士会札幌支部

〒060-0042 札幌市中央区

大通西5丁目11番地 大五ビル6F

T E L (011) 232-1843

F A X (011) 222-0924

情報委員会

委員長/安達あけみ

副委員長/片岡 哲二 後藤 朋恵

森田ゆう子 今村 敏彦

委員/宮川 耕介 柳山美保子

川原 昌彦 首藤 一弘

星野 里英 岩浪 治郎

馬場 将孝 多田 幸

印刷一般社団法人中印株式会社

〒007-0823 札幌市東区東雁来

3条1丁目1-34

T E L (011) 781-7501

F A X (011) 781-7516